

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都杉並区上高井戸 1-7-6
園名	アスク上高井戸保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

なきごえ

<テーマの設定理由>

動物は様々な年齢で身近な存在で関心が湧きやすいため。

日本と外国とで同じ動物でもなきごえに違いがあることに触れる中で様々な言語への興味・関心が広がると感じたため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする。始めは鳴き声を聞いて動物を当てた。少しずつ興味が出てきたところで自分の好きな動物を描いたり、色を塗った。探究活動としては、図鑑を見たり、本に出てきた動物に興味を示していた。

自分の好きな動物に関して英語で自己紹介をした後、好きな動物を紹介した。

11月、12月：なきごえに触れる

1月、2月：自分の好きな動物を考え、描く

3月：英語で自己表現

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

画用紙、鉛筆、色鉛筆：自分の好きな動物を描くときに使用した

動物図鑑：様々な動物を調べて見るため

タブレット端末：動物のなきごえを聞く、写真を見るために使用した

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：「にゃーにゃー」の猫や「わんわん」の犬、なじみのある動物のなきごえは知っているが、ウサギやきりんなど、なかなか近くにいない動物はどう泣くのか疑問を持つ。タブレットでなきごえを確認したり、どう泣くか想像して発表してみた。

探究活動の様子：

なきごえを教わってから、おままごとでなりきって遊ぶ際、英語を交えながら遊ぶ中で、教わっていない動物はなんてなきごえなんだろうと疑問を持つ子が出てきた。実際に調べてなきごえを真似する子もいた。身体を動かすことが好きな子供たちは動物になりきって体を動かすことを楽しみながら、様々な動物に興味を持っていた。動物になりきり体を動かし「カエル見たことあるよ」「猫はこうゆう動きじゃない？」と思い出しながら探究活動に取り組む。タブレットでなきごえを流すと「ひつじ」「いぬ」と答える姿があったため、動物のカルタを利用し、なきごえを日本語・英語と交互で言い合いながら遊んだ。

ふりかえり（保育士の気づき）：

動物が好きな子が多く、興味を持てるテーマだった。遊びの中で動物になりきったり、服の柄に動物がいるとその動物について話したり、日常の中に動物に触れる機会が多くあった。日本語と英語では少しの違いであっても、子ども達はよく聞き違いを感じる事が出来ていてよかった。

動物園にいる動物にも日本語と英語が違うのかをさらに興味を持ち英語だとどのような鳴き声をするか考えてから答えをみつけて考えていた以上に興味をもち、登園してくると「お家でも調べてみたよ。」などという声もよく聞かれ、1つのテーマにこれほど興味、関心があることに驚かされた。

【4 歳児実施分】

問いを考える： なきごえってそもそも何だろう、どこからなきごえが出るのか、子ども達が疑問に思う姿が見られた。英語や探究活動の時間の中で絵を描いたり、動物のまねをして探求を行っていった。

探究活動の様子： なきごえから動物に対して少しずつ興味を持つ姿が見られたため、自分たちで絵を表現しながら動物に親しみを持つことができた。日本語と英語ではなきごえが違うということも知り、キャストでは出てこなかった動物に関しても知りたいと思う姿が見られた。

自分の好きな動物を描く時に「自分の家に猫がいるから猫にしよう。」、「動物園にいた動物にしようよ。」などと自分が経験したことから思い出すことが多く見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）： 動物に関して馴染みがあったが実際に自分の好きな動物を絵で描いたり、英語で自己表現をすることでより興味を持って深く考えることができた。

遠足で井の頭恩賜公園へ行って、見た動物たちにも興味を持ち「モルモットって鳴いていたっけ?」、「さるはキーキーって鳴いていたよね?」と会話が弾み、楽しんで探究活動を進めていた。

保育者が声をかけなくても探究活動に積極的に行うので、あまりこちらからアプローチしなくても考える力を身に付けてきていることが分かった。

【5 歳児実施分】

問いを考える： なぜ、国によって動物のなきごえが違うのかを考える。タブレットで様々な動物のなきごえを聞きどう聞こえるか、擬音を考えてみた。また、外国の動物のなきごえはどんな鳴き方か、国によってなきごえに違いがあるのかを探究する。

探究活動の様子：

好きな動物を描き、色塗りを行った。その際、動物名、使用している色鉛筆を見て色や動物の英語名、英語のなきごえを言いながら取り組めるようにした。擬音語なのになぜ日本語と英語では聞こえ方が違うのかを、タブレットを用いて聞いてみる。犬だと「わおわお」ねこだと「みゃー」等、感じたままのなきごえを各々考えて発表した。

ふりかえり（保育士の気づき）：

慣れない英文や発音に戸惑い、講師の言った後に続けて言うことが出来ないことが続いたが、何度も教えてもらううちに真似て言えるようになってきた。英語に慣れたことで苦手意識も薄くなったように感じた。同じ言葉や文でも聞こえ方が違ったり、耳が慣れるまで繰り返し聞くことが大切だと感じた。

「英語は難しい」という意識が強かった子も探究活動を行うことによって英語への関心がでてきた。英語と日本語の鳴き声の違いゲームをしてみたり、発音の練習をしてみたりと子どもたちで考えて楽しみながら探究活動ができる力が身に付いてきているので、見守ることも大切だと思った。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都杉並区上高井戸 1-7-6
園名	アスク上高井戸保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音のなる仕組み

<テーマの設定理由>

様々な楽器に触れる経験を通して音色に関心を持ち、その中で音の仕組みを知り、音楽への理解を深める。
オノマトペの考え方に触れ、言葉での表現を豊かにし音楽の面白さや楽しさを味わえるようにしたいと思ったため。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。
11月から12月にかけてはオノマトペについて知り、日常生活や戸外の音に耳を澄ませ、音に興味を持つ。
1月から3月は音のなる仕組みについて知る。
11月：日常生活の音に興味を持つ
12月：戸外の音に興味を持つ
1月：楽器に興味を持つ
2月：音はどうやって鳴るのか知る
3月：様々な楽器を演奏することを楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

木琴・ハンドベル・ピアノカ・鍵盤ハーモニカ…叩くこと・吹くこと・動かすこと、それぞれの楽器の鳴らし方に違いがあることを知るために使用

廃材…手作り楽器を作成するのに使用

タブレット…様々な楽器の音色に触れるため使用

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える：音楽以外にも、生活音や戸外の音もあることに気づき、様々な種類の音があり興味を持つように探究活動を行った。

探究活動の様子：

オノマトペビンゴを朝の会で導入し、散歩の場所を決めた。

子ども達と話し合い普段と違う公園に行き、戸外は戸外でも公園によって聞こえる音が違うことを感じ取っていた。また、道中でもオノマトペのビンゴ表をみながら様々な音に耳を傾ける姿が見られた。

ビンゴ表の中から、「どの音ならきこえそう？」と保育者が声をかけ、日常の音に意識を向けられるよう関わった。「時計の音！」「風の音！」など、子ども達からも積極的に発言する姿が見られた。

楽器では、あえて保育者が演奏の仕方を教えずに子どもたちに考えさせることで、どうやって楽器を鳴らすか試行錯誤しながら楽器を鳴らす姿が見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペビンゴの中で「電話」があり、どこで電話の音が聞けるか考えて話し合った結果「事務所で聞けそう」とのことで、事務所に行くが電話の音の音が創造と違ったようで、驚いたり納得がいかない様子だった。子どもたちにとって、電話の音=スマートフォンの音であり、時代の変化と共に物や音に対する概念が変化していることに気づいた。保育者が思っている答えと子ども達の答えが違うことで「風の音はどのように聞こえる？」と問うと「ヒーヒー」「フーフー」と保育者は「ヒューヒュー」という答えが返ってくると思ったが、こう聞こえると考えている大人と、子どもとの聞こえ方の違いに驚いた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：生活音や戸外の音もあることに気づき、様々な種類の音があり興味を持つように探究活動を行った。

探究活動の様子：自然の音がどのような音があるか子どもたち同士で話し合い、実際に音を探してみようということで戸外で自然の音を探した。探した音は紙に書きとめていき、子ども同士で「こうゆう風に聞こえた」と擬音語をお互いに話す姿も見られた。いつもはあまり気にしていない生活音もオノマトペを用いたことで「どんな音がきこえるかな」と興味を持ち、今まで以上に様々な音に耳を傾ける姿が多くなった。戸外へ出かけた時も「今、風ではっぱがこすれた音がしたよ」など友だちや保育者に語り掛ける子もいた。楽器は、鳴らした楽器に触ってみて、振動が伝わることに気づき、震えることで音が鳴るということを知った。

ふりかえり（保育士の気づき）：

音という音楽の時間に使う楽器や保育園にある楽器を鳴らすことが音であると思っていた子どもたちが、身近にあるものの音にも興味が持てるようになり、これはこんな音がするね、などと知らせてくれ、実際に廃品で楽器を作ってみて音を鳴らすことも楽しみ、「音」とは音楽だけでないことを知ることができたように思う。自分たちで作った楽器で演奏会がはじまり音が鳴ると「色々な音楽が出来るね」と、てづくり楽器を貸し借りしながら音を楽しんでいた。音には鈴などの楽器の音、自然の音、手作り楽器の音などと様々な音の種類があることが分かり、今まであまり気にしていなかった音に敏感になり音楽を楽しみにしていた。ちょっとしたきっかけで子どもの興味・関心が広がっていくことを私たち保育者も知った。

【5 歳児実施分】

問いを考える： オノマトペや楽器演奏を行う中で音とはなにか、どうやって音が発生して、どうやって聞こえるのかを考えた

探究活動の様子：

日常生活や、戸外活動の中で、生活音を聞きどのように聞こえたかを擬音にして発表を行った。

タブレットを用いて、生活音を流し、何の生活音が充てるゲームも行った。意外とあてることが出来ず、普段はあまり生活音を意識していないことを知る。音楽の時間では、鳴らした楽器に触れることで、音は振動を通して聞こえることを知る。「声もおとだよね」と気づいた子どもたちが、声をだしながらどこが一番振動しているかを様々な体の部位を触ってみる。喉が一番振動していたことから、「声は喉から出ているんだね」と知ることが出来た。楽器も、様々な種類を出して実際に演奏してみる、叩くことで音が鳴る楽器や、吹くことで音が鳴る楽器の違いを知ることが出来た。また音の小さい・大きい・高い・低いの違いも気付くことが出来た。様々な音の鳴らし方を知った子ども達が手作り楽器も作り、音の鳴らし方にこだわりながら作成する様子も見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

オノマトペという新しい考えを知ったことで、子ども達も様々な音の種類があることを知り、新しい気付きに繋がった。擬音で表現する際には個々で表現方法の違いがあることも新鮮だったようで、意欲的に探究活動に参加をしたり、友だち同士でどう聞こえたか共有する姿も見られ、音への興味につながったと思う。楽器作りでは、作り方を真似したり合奏を楽しむ姿が見られ、保育者がきっかけを作ることで子どもの興味関心が広がっていくことを感じた。また、音の大きさによって明るく聞こえたり、暗く聞こえたりすることも分かり、「人が怒る時も大きな声を出すと怖いけど小さい声だとあまり怖くないね、音っておもしろいね」や「この音は今どんな気持ちなんだろう」と友だち同士でクイズを出しあいながら音を楽しむことが出来た。オノマトペという意味を知ったことでどんどん子供たちが意見を出しながら探究活動が広がっていったように思う子どもたちの無限に持つ考えに驚きさらに考えて行動する子どもたちが次にどんな探究活動に関心を持つのか楽しみになった。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都杉並区上高井戸 1-7-6
園名	アスク上高井戸保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自分のできること

<テーマの設定理由>

様々な体の動かし方に触れる中で運動遊びの面白さ・楽しさを味わいながら、自分で立てた目標に向かい取り組むことで達成感と満足感を味わうため。

2. 活動スケジュール

1 月から 3 月まで行い、月に 1 回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てる

1 月～3 月で行い、「走る・跳ぶ・バランス・押す・引く・柔軟」の 6 項目を中心に活動を行った。日々の生活の中でどのような遊びの中からこれらの力を伸ばすことができるか一緒に考えていった。

1 月：「走る・跳ぶ・バランス」をテーマに記録を行い探究をする。

2 月：どのようにしたら記録が伸びるかを考え、実践する。

3 月：更に「押す・引く・柔軟」の 3 項目を加え、生活の中でどのように伸ばしていけるかを考える。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

すくわくで使用していた記録用紙：力を伸ばすためにはどうしたら良いか様々な案を出しながら、実際に挑戦して記録を行い、数字を通して記録の変化を感じられるようにした。

アクティブプレイスポット：バランスに注目していたため、新たに用意した。ボードを積み上げて乗るなど工夫しながら挑戦した。

マーカーアーチ：飛ぶ距離のマークやスタート位置のマーキングに使用した。

4. 探究活動の実践

【3 歳児実施分】

問いを考える： 身体って何だろう、身体のパーツについて興味を持ち、部位の名前を知りたいという問いから探究活動につなげていった。

探究活動の様子： 保育の中でバランスを取り入れていった。椅子に座る前にバランスを行い、崩れてしまった人から座るようにすることで、数秒でバランスを崩してしまっていた子が倍以上もバランスを取ることができるようになった。更に子ども達から「バランスやりたい！」という声もあり、興味を持って積極的に取り組むことができた。

「走る」をテーマに行った際には、足の動きはどのようにしたら沢山走ることができるかを考えた。「小走りが良いかな?」、「大きく走る方がいいかも!」、「手を一緒に振った方がいいかも!」と子ども達から様々な意見が上がった。色々な方法で試していく中で「大きく走るといっぱい疲れちゃうね。」、「小さく走った方が沢山できたよ!」と実践を通して感じる事が沢山あった。

ふりかえり（保育士の気づき）： 身体を動かすことを楽しみながら、力を伸ばして前回よりも記録が伸びることに喜びを感じて、次へと繋げていくことができた。子どもたち同士で意見を出し合い、その意見を先に実践に繋げることができ、繰り返し行っていく中で記録や力を伸ばすだけでなく、子ども達同士の意見の出し合いも増えて、1人1人がしっかりと意見を持って話すことができた。

身体の部位名称にも興味を持ち、園にある本で調べ人間はたくさんの部位があり、身体を動かすことを知り、実際に身体を動かしてみて「太もも、ふくらはぎ、足首、つま先」などの名称を覚えていった。更に興味がある子どもは毎日本を見て名称を覚えていき、身体を動かすことだけでなく身体の部位名称にも興味を持つことを知ることができた。

【4 歳児実施分】

問いを考える： 体の部位がそれぞれどのような動きをするのか疑問に持ち、探求活動で実際に動かしながらそれぞれの部位の動きや役割を知ることが出来るよう探究活動を行った。

探究活動の様子： 項目の中のジャンプに関して、普段は走っていたり遊んでいる中でどのように取り込めるのか子どもたちと考えた。色々な遊びが出たが、馴染みのある鬼ごっこにジャンプを入れて実践した。実際に行うとルールに公平さがなかったり、難しいところがあった為、子どもたちとルールを決め直し、オリジナルのゲームを作り遊んだ。

どうしたらジャンプが遠くまで跳べるのかという疑問に、子どもたちから「お腹に力を入れる」、「膝を曲げて跳ぶ」など方法を変えていた。また、友だちの跳ぶ様子を見て「腕を大きく振って見たら？」と客観的に見ることもあった。

ふりかえり（保育士の気づき）： 日常的な遊びの中でどうしたら取り入れられるのかということに子ども達から沢山の意見が出て実践した。実践しないと分からないことも多く、子どもと一緒に気付く場面が多かった。また自分だけではなく他者を見ることで気付くポイントもあり、集団での取り組みの大切さを感じた。

保育者が提案する前に子どもたち同士で考える力が身に付いている事が分かり、子ども達の意見を見守っていったところ「膝を曲げて跳ぶ」、「膝を曲げないで跳ぶ」を同時にやってみたらどちらが遠くまで跳べるかなどを考え、自分達で答えを見つけることができる力がついてきたことが分った。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

身体の部位は、それぞれどのような役割を担っているのか、どう動かしたら高くジャンプできるか、早く走れるかを考えて探究活動で実践してみた。

探究活動の様子：

だるまさんが転んだをアレンジして決められた歩数で端まで行くという遊びを行うと、やりやすい歩数に個人差があること、歩数によって歩幅が変わることに気づき「難しい」「もう一回やりたい」と意欲的に参加することが出来た。また、記録シートを使い飛べた距離や、走ったタイムを記録することで、記録が更新出来た時には喜び、どうして記録が更新出来たか考え、様々な動きで再度試してみる姿が見られた。

また、友だち同士でアドバイスを送り合う姿も見られた。

ふりかえり（保育士の気づき）：

自分で考えた遊びについて講師から様々なアドバイスをもらいそれを活かした遊びを行うことが出来たことにより、遊びがさらに発展していったと感じる。探究活動内で改めて自分の体を意識したり動きを確認することで体に対して興味を持ったり、目標を達成することで自信にもつながった。

友達がやっている姿を見て「やってみよう！」と自分で進んでやる姿がみられ、上手いかなないと友だちや講師、保育者に自分から相談にいく姿が見られ、できないからやらないと諦めずに最後までやり通す力が持てるようになってきたことに気づき、子ども達の成長のすごさを知れた。

